



# 大阪市立鶴見小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

#### 【現状】

- 大阪市教育基本計画に基づき、学校経営方針を「自ら学ぶ意欲を持ち、主体的に探究できる子どもを育てる」と設定し、自己発揮・自己変容のある教育活動を推進している。
- 異学年集団で活動を行うキッズファミリーの取り組みを継続することが、子ども一人一人が自分のもつている力を発揮し、それが思いやりの心を育てるにつながっている。
- 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現のため、本年度より教科化となる道徳教育の充実を図る。

#### 【課題】

- 本校の子どもは大変素直であるが、読む力・書く力・表現する力に課題がみられ、自分の思いや考えをうまく表現できない傾向がある。それは、全国学力・学習調査の結果(習得のA問題はよいが、活用のB問題には課題がある)にも見られ、言語活動の充実と習熟度別学習やT.T.を活用した授業づくりを推進する必要がある。
- I C T (Information Communication Technology)を活用した教育活動の取組については、大型液晶テレビの各教室への導入、タブレット、パソコンなどの活用をさらに深め、取り組みを進める必要がある。
- 若手教員の増加により、「アクティブラーニング」など対話的学習の手法を研究し、教員が魅力ある授業の展開を進める必要がある。
- 英語学習の全学年での導入に伴い、校内で共通して取り組む時間を設け、英語に常に親しんでいく環境を整えていく。

### 中期目標

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 平成32年度の小学校学力経年調査や校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）と答える割合を95%以上にする。
- 平成32年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害の子どもの割合を0にする。
- 平成32年度末の校内調査において、新たに不登校になる子どもの割合を0にする。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校経年調査における標準化得点（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）を、平成28年度より5ポイント向上させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における正答率54%以下の子どもを同一の母集団で比較し、平成28年度より8ポイント減少させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における活用に関する問題の正答率8割以上の子どもの割合を同一の母集団で比較し、平成28年度より8ポイント向上させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する子どもの割合を、平成28年度より8ポイント向上させる。
- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である20mシャトルランの平均記録を、平成28年度より1.6ポイント向上させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標

- (A) 平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- (B) 平成 31 年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 95% 以上にする。
- (C) 平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- (D) 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校の年度目標

- (A) 平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100% にする。
- (B) 平成 31 年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の質問に対して、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を 95% 以上にする。
- (C) 平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を 0 にする。
- (D) 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を 0% にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- (E) 平成 31 年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (F) 平成 31 年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- (G) 平成 31 年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- (H) 平成 31 年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- (I) 平成 31 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、30 年度（男子 29.34 女子 31.91）より 0.4 ポイント向上させる。

#### 学校の年度目標

- (E) 平成 31 年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (F) 平成 31 年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- (G) 平成 31 年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- (H) 平成 31 年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より 1 ポイント増加させる。
- (I) 平成 31 年度児童アンケートにおける「体が柔らかくなっているように感じますか」の質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標 (達成状況)	区分	年度目標の達成状況 および 結果と分析	進捗 状況
安全な学校の実現  (B)	子どもが安心して成長できる 安全で安心できる学校、教育環境の実現	【いじめを未然に防止するための取組を推進する】 月2回子どもについての共通理解の場を設定するなど、組織的に対応し、いじめの未然防止につなげることができた。	B
	安全で安心できる学校、教育環境の実現	【月目標を毎週の児童朝会で確認し、定着を図る。】 月目標の定着に向けて、代表委員会を中心にして、劇・呼びかけの放送・ポスター作りを行った。	B
	道徳心・社会性の育成	【人・もの・こととふれ合う体験的な活動を通して、幅広い人間性を育む】 学期に1回以上、子どもたちの発達段階に応じた体験的な活動を実施することができた。	B
	道徳心・社会性の育成	【子どもの実態を踏まえた適切な支援を行い、一人一人の違いを認める集団を育てる。】 計画的に研修会が実施され、適切な支援をすることができた。	B
学力・体力の向上  (A)	心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	【子どもが興味・関心をもちながら学習に取り組むことができる授業づくり・教材研究を行う。また、個に応じた指導を充実させるために、学習時間の設定の仕方や、学習シートについて検討し、学力の向上を図る。】 児童の実態や単元に応じて、指導方法を考えたり教材を作成したりすることができた。	A
	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	【全学年でICT機器を活用しながら、子どもが意欲的に学習活動を行うことを目標として授業研究に取り組む。】 普段の授業でもタブレット端末、大型テレビ、授業用パソコンなどのICT機器を使用しながら指導をすることができた。	B
	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	【主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を推進する。】 学力経年調査の結果からも児童が深い学びに向かっている様子がわかった。	B
	国際社会において生き抜く力の育成	【英語活動に親しむことを通じて、自己表現力の素地を養う。】 児童は積極的に楽しみながら学習に取り組んでいる様子だった。来年度からの英語科実施に向けての下地作りができた。	A
	健康や体力を保持増進する力の育成	【柔軟性が高まる運動に取り組む。】 5年生においては、男子、女子ともに全市共通目標の数値を大幅に超えることができ、目標を達成することができた。	B

大阪市立鶴見小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</b>	
<b>全市共通目標</b>	
(A) 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	<b>100%</b>
(B) 平成31年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。	<b>H30 94.8% ⇒ H31 95.9%</b>
(C) 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	<b>H30 0 ⇒ H31 0</b>
(D) 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	<b>H30 0.2% ⇒ H31 0%</b>
<b>B</b>	
<b>学校の年度目標</b>	
(A) 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。	<b>100%</b>
(B) 平成31年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。	<b>95.9%</b>
(C) 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。	<b>0</b>
(D) 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0%にする。	<b>0%</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめを未然に防止するための取り組みを推進する。	指標 配慮を要する子どもの情報交換を月2回実施し、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ対策委員会を中心に組織的に対応していく。	B
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 月目標を毎週の児童朝会で確認し、定着を図る。	指標 毎週1回、各教室にて目標についての振り返りを行う。	B
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 人・もの・こととふれ合う体験的な活動を通して、幅広い人間性を育む。	指標 学期に1回、子どもの実態に応じた体験的な活動を実施する。	B
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 子どもの実態を踏まえた適切な支援を行い、一人一人の違いを認める集団を育てる。	指標 学期に1回校内研修会を実施し、それをもとに子どもの実態を多面的にとらえ、適切な支援を行っていく。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>① 生活指導部会や職員会議後など月2回子どもについての共通理解の場を設定するなど、組織的に対応し、いじめの未然防止につなげることができた。</p> <p>② 月目標の定着に向けて、朝会だけでなく代表委員会を中心にして、劇・呼びかけの放送・ポスター作りを行った。振り返りの時間がバラバラになってしまった。</p> <p>③ 学期に1回以上、子どもたちの発達段階に応じた体験的な活動を実施することができた。</p> <p>④ 計画的に研修会が実施され、適切な支援をすることができた。</p>		
次年度への改善点		
<p>① 継続して取り組み、情報の共有に努める。</p> <p>② 各教室で振り返りをする時間を設定する。 →金曜日の終わりの会で振り返る。 目標を守る児童が増えるよう、指導者が学級の実態に応じた声かけを行っていく。</p> <p>③ より実態に合うよう内容を精選し、継続して取り組んでいく。</p> <p>④ さらに適切な支援につなげられるよう、継続して研修会を実施していく。</p>		

大阪市立鶴見小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b>	
<b>全市共通目標</b>	
(E) 平成31年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
H30 3年 100.8 ⇒ H31 4年 103.2	
4年 100.5 ⇒ 5年 103.6	
5年 99.5 ⇒ 6年 102.9	
(F) 平成31年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。	
H30 3年 14.1% ⇒ H31 4年 11.6%	
4年 9.9% ⇒ 5年 2.8%	
5年 13.9% ⇒ 6年 8.5%	
(G) 平成31年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。	
H30 3年 31.0% ⇒ H31 4年 44.9%	
4年 18.3% ⇒ 5年 39.4%	
5年 23.6% ⇒ 6年 33.8%	A
(H) 平成31年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
H30 76.1% ⇒ H31 78.2%	
(I) 平成31年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、30年度（男子29.34 女子31.91）より0.4ポイント向上させる。	
H31 男子 36.34 女子 35.74	
<b>学校の年度目標</b>	
(E) 平成31年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
H30 3年 102.1 ⇒ H31 4年 103.2	
4年 101.3 ⇒ 5年 103.6	
5年 98.7 ⇒ 6年 102.9	

(F) 平成 31 年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。

H30 3年 14.1%	⇒	H31 4年 11.6%
4年 9.9%	⇒	5年 2.8%
5年 13.9%	⇒	6年 8.5%

(G) 平成 31 年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。

H30 3年 31.0%	⇒	H31 4年 44.9%
4年 18.3%	⇒	5年 39.4%
5年 23.6%	⇒	6年 33.8%

(H) 平成 31 年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より 1 ポイント増加させる。

H30 76.1% ⇒ H31 78.2%

(I) 平成 31 年度児童アンケートにおける「体が柔らかくなっているように感じますか」の質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。

9月 70% 2月 64%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 子どもが興味・関心をもちながら学習に取り組むことができる授業づくり・教材研究を行う。また、個に応じた指導を充実させるために、学習時間の設定の仕方や、学習シートについて検討し、学力の向上を図る。	A
指標 週に 1 回、学年ごとに授業つくりや指導方法について検討する機会を設ける。	
取組内容②【施策 5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 全学年で I C T 機器を活用しながら、子どもが意欲的に学習活動を行うことを目標として授業研究に取り組む。	B
指標 年間計画を立てて単元内に I C T を活用する授業研究・公開授業を 6 回行う。	
取組内容③【施策 5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を推進する。	B
指標 1 日に一回以上授業時間内に、話し合い活動などの主体的・対話的な学びにつながる機会を設ける。	
取組内容④【施策 6 國際社会において生き抜く力の育成】 英語活動に親しむことを通じて、自己表現力の素地を養う。	A

指標	高学年35回、中学年15回の外国語活動の時間以外にも、C—NETの先生と触れ合う機会を15回以上設ける。	
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】	柔軟性が高まる運動に取り組む。	B

指標	体育の授業時間内に、一回以上ストレッチを意識した体操や運動に取り組む。	
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>		
<p>① 児童の実態や単元に応じて、指導方法を考えたり教材を作成したりすることができた。学力経年調査の結果からも児童が着実に学びを得ていることがわかる。</p> <p>② 研究授業・公開授業だけではなく、普段の授業でもタブレット端末、大型テレビ、授業用パソコンなどのICT機器を使用しながら指導をすることができた。</p> <p>③ おおむね行うことができた。学力経年調査の結果からも児童が深い学びに向かっている様子がわかった。</p> <p>④ 目標の数値を達成することができた。児童は積極的に楽しみながら学習に取り組んでいる様子だった。来年度からの英語科実施に向けての下地作りができた。</p> <p>⑤ 5年生においては、男子、女子ともに全市共通目標の数値を大幅に超えることができ、目標を達成することができた。</p> <p>しかし、他学年においては、各クラス、学年でストレッチを意識した体操や運動に取り組んだが、「体が柔らかくなったと感じる」までに至らなかった。</p>		

次年度への改善点	
<p>① 今後も取組を継続していくとともに、新学習指導要領実施に合わせた教材研究・授業作りを行っていく。</p> <p>② 今後も取組を継続していく。また、プログラミング教育実施のための研修会を開き、さらなる理解を深めていく。</p> <p>③ 新学習指導要領の重点項目として「主体的・対話的で深い学び」が挙げられている。深い学びにつながるような授業作りをさらに模索していく。</p> <p>④ 英語科の評価方法を学校全体で統一できるようにしていきたい。また、話すことを中心とした授業を行うための教材研究を引き続き行っていく。</p> <p>⑤ 継続して、体育の授業時間内に、一回以上のストレッチを意識した体操や運動に取り組む。さらに、運動委員会を中心にストレッチを意識できるようなポスターを作り、啓発する。</p>	